2022年5月29日礼拝説教要約

弟子たちの再出発 II

（マタイ28・16～20）

一、信仰と疑い

16節、17節をご覧ください。**〈さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。〉**とあります。17節後半に、**〈ただし、疑う者たちもいた〉**とありますが、この訳文ですと、次のように読めてしまいます。十一人の中で、疑わなかった者もいれば、疑った者もいたと。原文を見ますと、「しかし彼らは疑った」と書かれています。しかし翻訳された聖書を見ますと、どの訳も「しかし疑う者もいた」となっています。ところが「しかしそれでも彼らは疑った」と訳している神学者がいました。私は「しかし彼らは疑った」と読む方が良いと思います。なぜなら主イエス・キリストを信じると言いましても、みんなが疑い――その場合の疑いとは、様々な意味における疑いですが――を持っているからです。たとえば、なぜ神が父・子・聖霊なるお方なのだろうかと。分かりません。神が御自身を父・子・聖霊として現されたからであり、教会がそのように信じてきたので、私たちもそのように信じるだけです。そういう意味では、信仰とは決断です。

二、弟子としなさいをめぐって

19節の前半を見てまいります。**〈ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。〉**とあります。このことばは、近年キリスト教会において、伝道熱心な福音派や、聖霊派という元々は福音派でありながら聖霊の働きに目覚めた流れ、及びペンテコステの伝統を持つ教会の一部に「教会員を弟子化する」という流れが生まれまして、そういう教会が論拠にしたみことばでもあります。ですが今申し上げたことは、あくまでも私の見解ですから、見解を異にする方もいらっしゃると思います。その節はご容赦ください。

教会員を弟子化することに一所懸命になりますと、弟子化するために訓練する人と訓練される人に分けられるようになります。訓練するのはだれなのかと申しますと、小さな教会では牧師でありましょう。では、訓練される側はだれになるのかと申しますと、教会員である信徒です。結果、訓練する人は、訓練される側の信徒たちから見ますと、ますますイエスさまに近い存在になって行きます。私はここで、良いか悪いかは申しません。ただ個人的には、自分自身の性格的なものもありまして、教会で弟子訓練を行うのは好きでありません。

考えてみてください。弟子たちを選び、弟子たちを訓練したのはだれですか。神であり、人である主イエス・キリストです。主イエスが十字架で贖いの死を遂げて、死んで葬られ、死者の中から復活させられて天に上げられた後、弟子たちを整えられたのはだれですか。聖霊です。聖霊こそ、弟子たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるお方です。では聖霊にゆだねるとは、私たちが何もしないことなのでしょうか。そんなことはありません。神の導きと感じられたときは、あのことをし、このことも行います。

三、父、子、聖霊の名において

19節後半を見てまいります。**〈父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、〉**とあります。教会の活動は、まず神に礼拝を献げることですが、礼拝だけで終わることはありません。教会として伝道活動をします。すなわち、イエス・キリストの福音を伝えます。信じたら、バプテスマを授けて教会員になっていただきます。そういうわけで、「弟子とすること」「バプテスマを授けること」「主イエスのことばを教えること」の順序で語られていますが、順番としては、信じた者にバプテスマを授けることが最初です。後は、「弟子とすること」も、「主イエスのことばを教えること」も、礼拝を中心とする教会生活の中でなされて行く聖霊のわざです。

さて今回は、**〈父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け〉**について、少し掘り下げて考えてみたいと思います。原文は「父と子と聖霊の名に向かってバプテスマを授け」、あるいは「父と子と聖霊の名の中にバプテスマを授け」と訳されることばです。しかも「御名」ないしは「名」と訳されていることばは単数形です。ということは、バプテスマを授けるとは、父、子、聖霊として働いておられるおひとりなる神に向かって、浸すという意味になります。

教会は主イエス・キリストを、神が遣わされた唯一なる救い主にして神御自身であると信じるところから、父・子・聖霊という三位一体の神を信じるようになりました。マタイがこの福音書を発行した当時、三位一体なる用語はありませんでした。ですが、復活の主イエス・キリストが語られたことばを記すに当たり、**〈父、子、聖霊の名**（＝単数形）**において彼らにバプテスマを授け〉**と記したわけですから、三位一体の原形が、マタイの福音書が発行された時点においてある程度固まっていたと受け取るのが可能かと思われます。

主イエス・キリストを信じるとは、創造主なる神を父・子・聖霊として信じることです。フランシスコ会訳が**〈父と子と聖霊の名に入れる洗礼を授け〉**と、不思議な日本語を用いて訳したのは、重要だからです。